

第 16 回南丹市環境審議会 議事録

日 時	令和 2 年 1 月 1 6 日 (木) 1 3 時 3 0 分～1 5 時 4 5 分
場 所	南丹市役所 4 号棟 2 階会議室
出席者	<p>【委 員】</p> <p><出席></p> <p>丹羽英之会長、小中昭副会長、宮田洋二委員、芦田美子委員、 山内富美子委員、森雅彦委員、山内守委員、太田喜和委員 以上 8 名</p> <p><欠席></p> <p>宇野齊委員 以上 1 名</p> <p>【事務局】</p> <p>(南丹市役所) 市 民 部：弓削部長 市民環境課：中島課長、平井係長</p> <p>(事 業 者) 独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 窪田、松尾、浅井</p> <p>(委託事業者) 株式会社サンワコン 吉川、川嶋</p>

1. 開 会

2. 北陸新幹線（敦賀・新大阪間）環境影響評価方法書に係る諮問について

3. 議事

1) 北陸新幹線（敦賀・新大阪間）環境影響評価方法書について

【会 長】 ただいま、市の方から北陸新幹線（敦賀・新大阪間）環境影響評価方法書に関する諮問を受けたので、説明後、答申に向けての審議を行うので、お願いする。

《事務局及び鉄道運輸機構からの説明》

【委員 A】 心配しているのは、地下水並びに河川の水の低下等である。北陸新幹線の新北陸トンネル付近で農業用水が枯渇しているということはご存じだと思うが、工事の影響だと認識されているか？

【機 構】 今のご質問は、金沢・敦賀間の工事による影響であるが、担当外であるため、工事との因果関係については、認識していない。

【委員 A】 九州新幹線の長崎ルートにおけるトンネル工事で川が干上がったということがあり、これはトンネル工事の影響であると認められている。更には、神奈川県の川や滝が完

全に枯渇したということ、新東名高速工事では農業用水が枯渇したということを事業者が認めている。こういった地下水が枯渇したという事例が現に起きていることに対し、機構でも把握はされていると思う。今回の工事では、由良川を横断することになるが、橋梁で川の上を通るのか、川の底を通るのかによって、由良川の水量の低減等が問題となってくる。実際、工事に入った後に枯渇してしまったら、取り返しがつかないことになるので、川の底を通る場合、どの程度の深度であれば影響が回避できるか、把握しているか？

【機構】 他事業者によって影響が出たことについては、認識している。機構としても、発生した状況に応じて、地域に説明をしたり、補償をさせていただくことになるが、影響がでることはよろしくないので、環境影響評価方法書の段階で可能な情報を皆様から集約して、より良い計画にしたい。そういった中で、山岳トンネル工事に伴い、掘削で実際に地質が露わになり、そこに水の道があった場合には、水が出ていくことになるので、事前に地質調査で掘む必要があり、ルート選定に反映する。平面的に避けきれない場合は、縦断的に高さや深さで調整しながら検討を進める。現段階では、橋梁で通るのか、トンネルで通るのかは両方の可能性を持っているので、今後検討していく。

【委員A】 こういった問題が予測されるので、極力、回避する工法を考えてもらわないと、影響が出れば補償しますでは、済まされないこともある。由良川の最上流に近い部分で、流量が減少した場合には、様々なことで影響が出てくるので、十分な調査をしてもらいたい。新幹線工事をすることによって、車両が増えたり、残土のストックヤードの問題や土砂の中に有害鉱物があるかもしれないし、地元の良い影響がある訳ではないので、しっかりとした調査の実施をお願いする。

【会長】 影響評価であるので、事前にできるだけ影響を予測して、回避するというのが主眼だと考えるが、問題となっている地下水について、技術的にどういった調査をして、どこまで予測可能で、どの時点でどういった対応が可能なのかをわかっている範囲で教えてもらいたい。

【委員B】 三方花折断層を通る場合は、影響を考慮してということが書かれており、また、日本の地盤も緩くなってきているため、どの程度まで調査をして、危険性を回避できるのか、それも含めて回答を。

【機構】 地下水の検討については、調査として、地域での水利用の状況に関して、文献や自治体ヒヤリング、井戸の状況を抑えていく。それを踏まえて、井戸等の調査を行って現況を把握していく。予測については、地質等の状況を踏まえて、専門家の意見を参考にしながら実施していくことや、シミュレーションによる予測検討を行っていく。

現在、ルートは幅を持たせている状況であり、まずは地質や帯水層の位置といった自然的情報に加えて、水の利用といった社会的な情報を合わせて解析をしていく。その際に、工事でどの程度影響を防げるかということであるが、極力、水を引き込まない工法を検討しながら進めていく。

活断層の件は、どこかで必ず横断するので、極力、横断を最短にできるよう、周辺の状況や公開されているデータベース等を基に検討していく。横断する部分については、現在公表されている指針や基準に基づき、耐震設計を行っていく。近年の大地震に対

応する形で耐震構造の基準に順次改定されているので、その状況を見ながら設計に反映していく。

【会長】現時点では、ルートは確定していないし、どこでどういった調査をしていくのかということは、今後、コンサルと検討していくことだと思うが、例えば地下水であれば、ここでモニタリングを行う等の情報は公表するのか？

【機構】方法書で意見を伺い、調査等を行った後の準備書の段階において、ルートを公表し、モニタリングについても公開していく。

【会長】懸念されている地下水や河川流量について、低水時や豊水時といった限定的なモニタリングとなっている。技術的には、定期的に長期間水位をモニタリングすることは可能だと思うが、そういったことはしないのか？

【機構】必要最低限ということで方法書に記載したが、限定的にしない方が良いとのことであれば、反映していく。

【会長】精度が高いということであれば、年に数回でもわかるが、自然のことなので、状況を見てみないとわからないということであれば、間隔を短くしてモニタリングすることが大事である。

【委員C】対象事業実施区域は変更なしとの解釈で良いか？

【機構】対象実施区域については、今回のアセス調査を進めていく中では、この範囲内で実施していくことになる。万が一、何か特段の事情が生じて区域外で実施することになった場合には、アセス手続きを所定のところから、やり直していくことになる。

【委員C】トンネル区間と明かり区間の違いによって、調査の内容は変わるのか？

【機構】トンネル区間と明かり区間によって変わってくる。方法書に示している内容について、地域の状況によって、調査回数を適宜変更していく。

【委員C】図面集の湧水等の位置図において、対象実施区域外に存在する対象物を図示してあるが、酒造が1箇所存在しており、それについて把握はされているか？

【機構】文献や資料を基としているが、今後、自治体の資料やヒヤリング、地下水の調査を実施して拡充していく。

【会長】事業実施区域の中で残土を処分していくのか？

【機構】残土処分については、ダンプが集中することによる影響やCO₂が発生する等をこのエリアの中で評価していく。最終処分場は、関係自治体と相談しながら、決めていく。

【会長】説明は、法令に基づくごく一般的な話であり、南丹市に限って言えば、基本は山岳トンネルであり、由良川の横断にあたって、明かり区間が1箇所できる可能性がある。それ以外に斜坑が4kmに1箇所であるため、南丹市内に3、4箇所できるということか？

【機構】概ねはそういった形を想定しているが、由良川横断箇所については、必ず橋梁になるとは決まっていない。

【会長】橋梁でなければ、かなり深いところまで掘るということか？

【機構】その可能性も有り得る。

【会長】土地の形状にもよると思うが、斜坑は、工事用の進入路を含めて、1箇所あたりどの程度の面積になるのか？

- 【機 構】 山岳トンネルの区間ごとの長さによって変わってくるが、一般的な施工ヤードとしては、数千平方メートル程度は確保しながら進めていく。作業のための仮のヤードであるため、他の事例では、休耕田等の平地で、表土をめくってシート、砕石を敷いて利用し、工事完了時には原形復旧でお返りする。基本的には、林内に入っていくことは避け、休耕田等の活用を前提としていく。
- 【委員D】 斜坑が3、4箇所と想定した時に、今ある休耕田だけで対応できるのかということを考える。また、排出される土砂は相当量になると想定される。現状を見ると周辺道路は、府道が主要道であるが、脆弱と言わざるを得ないため、工事車両の通行に際して懸念をしている。そういったことを含めて、いつ頃にルートやトンネル・明かり区間の公表があるのか？
- 【機 構】 地域住民の生活道路や影響がどこまであるのかであるが、何時から何時の間にダンプが何台通行する等の詳細は、工事施工認可がおりてからになるので、アセス評価書が整った後になる。次の準備書段階で、土砂搬出の大きな考え方について示したいと考えている。
- 【委員D】 アセス手続きが通れば、次の段階ということだが、アセス手続きで全ての条件が把握できると考えているか？許可がおりれば、次に行くということなのか、十分に検討する必要があるのか認識は？
- 【機 構】 アセス手続きは、法的に整備された枠組みであるため、進めていかなければならないと考えているが、許可がおりたからといって、それを振りかざして進めることは考えていない。アセス手続きは、1つの条件にすぎないと考えており、事業としては、財源の確保や効果等、様々な要件が整って工事着工となるが、事業内容の説明会や工事説明会、また、用地確保時には、事前に説明を実施し、できるだけ地域と連携しながら進めていく。
- 【委員D】 南丹市を通過する区間というのは、交流人口を増やしていく中での貴重な観光、環境資源である。進める中で、調査地点の数や方法等を地元にご相談いただき、協議の中で進めていくという方策をお願いします。
- 【会 長】 今後、工事が進むにあたって、ドローン等を使い、工事着手前から工事中、完了後といった整備される過程のモニタリングにも取り組み、自治体やこういった場で示してもらいたい。
- 【委員A】 地域住民にとっては、貴重な自然環境を今まで守ってきたという思いがあることは、認識しておいてもらいたい。アセスがおりたから、工事着工したから関係ないといったことではないとは言われたが、現実として工事車両の荒い運転やマナーが悪い点が見受けられるので、人的なことではあることは、努力いただきたい。
- 【委員B】 生活環境や自然環境を壊さないための対策と併せて、地下の探査をしっかりとしていきたい。探査の方法も変わってきていると考えるので、この地点を調査したから終わりではなく、3次元調査等複数の方法がある。今までのデータの他に現状を調べつつ進めてもらいたい。
- 【機 構】 地下のデータについては、他事業で行ったボーリングデータや提案の調査方法も活用しながら、また、自治体の資料を参考に検討を進めていく。

【委員E】先ほどの質問で、ルート公表について、答えがないように思うが、いつ頃になるのか。

【機 構】ルートを示せるのが、準備書の段階である。そこで、再度、方法書の時と同様に説明会を開催する。

【委員D】この地域には簡易水道があるため、慎重に進めてもらわないと、飲料水がないという状況になるので、注意をいただきたい。自然が豊富であるので、水も豊富にあるというように思われがちだが、水の確保は大変であり、枯渇することがあってはならない。

【委員B】採掘した廃棄物の処分先や処理方法は決まっているのか？

【機 構】産業廃棄物の処理ルールに従って、処理していくが、リサイクルできるものは、リサイクル目標率を達成できるよう処理していく。

【会 長】今までの意見をとりまとめ、素案を作成いただき、次回の審議会で委員に確認いただくことでよろしいか？

【委 員】異議なし

【委員D】工事に着手する前から、地元と調整のうえ、進めてもらいたいと考えている。

【委員A】飲料水が枯渇すれば、大変なことになる。由良川や桂川を横断する際に、どの程度の深度であれば影響がないのか、慎重に調査してもらわないと、最上流で枯渇するようなことになれば、地域のみならず下流域にも大きな影響を及ぼすことになる。

【委員D】知見では通常時でも流量が少なく、河内谷では、いくつもの滝や谷水が流れ込んでおり、工事の影響を懸念する。

【委員A】他府県で枯渇している箇所があるが、そこでも事前に調査はしているはずである。

【会 長】技術的に無理なこともあるが、方法書に掲げているような地点、回数を増やすことや候補地点の追加といった要望については、こちらから上げていけることである。

【委員F】振動で今までの土壌が脆弱になっていくといった事例もあり、懸念される。

【会 長】大きなところでは、ルートがいつ決まるのか、どこをどのように改善するのか、やはり一番は水に関する事。

【事務局】分野ごとにもいろいろとご意見をいただいたところであり、一定まとめておりますので確認をお願いします。

まず、水環境の点で由良川の枯渇や飲料水に関する事、動植物や水環境の水量・水質に係るモニタリング方法、時期や地点について、残土を含めた廃棄物の適正処理、有害物質の流出に関する事、国定公園第1種地域である芦生の森やかやぶきの集落も近いという点からの景観保全の点、工事における生活環境への影響、振動による土壌への影響、地元との連携によってアセスや工事を進めてもらいたいとの要望が意見としてあったと思いますが、追加等あればご意見ををお願いします。

【委員B】地下の三次元調査についても、確認をお願いします。

2) 第2次南丹市環境基本計画策定について

- ①南丹市の環境に関する市民アンケート結果について
- ②ワークショップの開催について

【会 長】 それでは、アンケート結果とワークショップの開催について、事務局から説明をお願いします。

《事務局からの説明》

《質疑応答》

【会 長】 内容等について、何か意見、質問等あればお願いします。

【委員F】 各会場のワークショップに参加する人数は把握しているのか。参加申込書がないようなので、当日にならないと何人来るのか分からないのか。

【事務局】 当日にならないと分からない。

【会 長】 事前申し込み制にしなかったのは何か理由があったのか。当日の進行でワークショップのファシリテーターは重要だが、人数に対して誰が対応するか当日でないと分からない。進行の力量が問われる。

【委員A】 総合振興計画の時に行ったワークショップでは、参加者が少なかった。

【委員B】 参加対象には子どもたちも含まれるのか。ある程度学校を通して声掛けをしないと集めるのは難しいと思う。

【事務局】 かなり少人数になる可能性があるため、課内では、各地域の環境美化推進委員や環境保全活動をしている団体に声掛けをしていくことを検討している。

【丹羽会長】 ワークショップの開催が25日なので、早くしないと手遅れになる。それ以外の考えはないのか。声掛けをしたら参加しそうなところがあれば良いのだが。

【委員A】 せっけん友の会に声掛けをしてみる。声掛け用の案内文を事務局で作成して提供してほしい。また、3月1日に桂川のクリーン作戦もあるので、合わせて参加をお願いするようにする。

【会 長】 そのような動員をかけた上で、1会場あたりどれくらいなのか。10人くらいか。

【事務局】 環境美化推進委員は各集落に1人いるが、必ず出席してくださいとは言えないので、どれくらい集まっていたかには分からない。

【委員A】 環境美化推進委員としては3月までの任期なので、最後の仕事として出席して欲しい。

【事務局】 他の団体にも団体加入していただいているところについては案内したい。

【会 長】 10名くらいの場合には、5名くらいのグループにするような想定か。そのあたりを考えておく必要がある。

【事務局】 1グループ4人は確保したいと考えており、少ない場合はグループ数を減らし集約することを考えている。

【会 長】 ファシリテーターにはサンワコンが入るのか。

【事務局】 サンワコンと地元精通している市の職員にも入っていただく。

【委員B】 地元の市の職員にも呼び掛けをしてほしい。

【会 長】 A3の資料はファシリテートに使用するということですね。アンケートも速報ということであるが、そのあたりはよろしいか。

ワークショップに出席できる人がいれば知らせて欲しい。私は1月25日、26日は何とかしたい。2月1日、2日は難しい。

【委員F】 私は1月25日と2月1日は参加する。

【会 長】 他はよろしいか。審議事項はこれで終了する。その他何かあれば事務局からお願いする。

4 その他

【事務局】 本日の議事は以上であり、その他としては特にはない。次回は2月4日午前10時から、本庁舎の3号棟で開催するのでよろしく願います。通知は出させていただきます。

5 閉会

副会長あいさつ